



写真は右から糸数慶子参院議員、藤野保史、近藤昭一両衆院議員、犠牲者の杉浦正男、松本五郎、菱谷良一の各氏

国会請願の新しい成果を確信に2万同盟 実現、市民と野党共闘で安倍内閣退陣へ

いよいよ、各都道府県本部の大会・総会がはじまりました。この1年間の同盟活動を総括し、教訓を明らかにし、4月中央理事会で確認した2万人の会員拡大はじめ請願署名運動など、「創立50周年記念同盟運動躍進年間」にふさわしい前進を勝ちとるための方針を決め、それを推進する指導体制を確立し、直ちに行動を具体化しましょう。

「市民と立憲野党の共同」の前進のなかで、新しく紹介議員を承諾された国会議員が増えていきます。

安倍政権は、国政を私物化し、改ざん、隠ぺい、ねつ造など、ボロボロです。安倍内閣を退陣に追い込む先頭に立って闘いましょう。

治安維持法犠牲者の杉浦正男さん（103歳）、松本五郎さん（97歳）、菱谷良一さん（96歳）が逮捕・投獄された体験と、一日も早い謝罪と賠償の実現を、と熱い訴えに参加者は同盟運動の重要性と決意を新たにしました。

5月16日の国会請願には、全国から178人が参加し、19万筆の請願署名を持って衆・参両院議員事務所を訪問し、紹介議員を要請しました。初参加の方、会員でない方も署名を持って参加し、会場で2人の方が入会しました。

主 な 記 事

- 国会請願行動 …………… 2
- 私も一言／永田浩三・武蔵大学教授 …………… 3
- 声明／麻生財務大臣の暴言撤回、即刻辞任を求める …………… 4
- 顕彰碑／斎藤秀一（エスペランティスト） …………… 5
- 抵抗の群像／「甞ゆるマスト」の平原甚松 …………… 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳 …………… 7



No.528

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
E-mail
chian@bz03.plala.or.jp
頒価 50円

国会請願は初参加者で熱気

国会請願行動には、犠牲者3人をはじめ遺族や初参加者など178人が集まり、衆参両院の国会議員に要請しました。

要請行動を前に衆議院第一議員会館大会議室で開かれた集会では、増本一彦会長と犠牲者3人があいさつしました。

「創立50周年・同盟躍進年間」の最初の対外的な行動になると切り出した増本会長は、訪問する国会議員と秘書に「野党共闘」での奮闘を激励し、紹介議員の承諾をお願いしてほしいと訴えました。

また、会員が目標の2万人になり、それぞれの地域で「市民連合」運動や民主団体との共闘を前進させれば、3万人、4万人の組織に発展させる展望が開け、紹介議員数も昨年の108人をさらに増やすことができる」と強調しました。



生活 図画を描いて逮捕された松本さん

は、自由にものがいえない時代を風化させないように語り続けたいとのべました。(写真下)

ともに生活図画事件の菱谷さんは、「治安維持法の時代に戻そうとするような動きが強まっているいま、若い方々が改憲を差し止めるようにしてもらいたい。治安維持法のひどさを多くの国民に伝えてもらいたい。私も死ぬまでがんばり抜きます」と話しました。

103歳になった治安維持法犠牲者の杉浦正男さんなど犠牲者の訴えに、会場はシーンとなり、やがて大きな拍手がおきました。

本会議や委員会の合間をぬって、衆院から立憲民主党副代表の近藤昭一、共産党の藤野保史、赤嶺政賢の各議員、参院からは仁比聡平、山添拓、沖縄の風の糸数慶子の各議員が激励にかけつけました。

藤野議員は、国会内での野党共闘が進んでいることを詳しく紹介。



近藤議員は、安倍政権が国家主義的な政治に動いているのは、治安維持法の誤りを反省し、賠償もしていないからだと指摘しました。

赤嶺議員は、安倍改憲を許さないということ、野党が協力している」と報告。仁比議員は、野党の本気の共闘で安倍政治をやめさせ、憲法がいきる新しい政治をつくることに全力でがんばると表明しました。

午後につけた山添議員は、東京で青年部の結成を準備していることをくわしく話しました。沖縄ことばであいさつした糸数議員は、希望をもってたたかっていますましようと呼びかけました。

(3ページへつづく)



5月、劇団前進座「人間万事金世中」を観た。イギリスのリットン作「マネー」を河竹黙阿弥が翻案し、日本の翻案劇第1号という。

舞台を開港・維新後の横浜に置き換えた。商売、窮乏、遺産をめぐる騒動に、愛や人情をからめた「市井物語」として楽しめた▼明治政府が新しい通貨「円」を導入した後の世情を描いた作品で、「金があるなら親類だが、なければあかの他人付き合ひ」「わたしや男にや惚れませぬ、お金のあるのにほれませぬ」のセリフが笑いを誘った▼強欲な商人役をつとめる藤川矢之輔は、「(維新後)庶民の中に新しい形の格差が広がり、戦争の道を歩むようになるか」、体制順応の行く先にみえる「戦争の危機」を暗示するという▼金に群がる魍魎(ワウリョウ)は明治時代も平成の現代も変わらない。政界の妖怪・安倍晋三とその政権の「末期的な総崩れ現象」国民の怒り、行動の高まりを前に「絶望するな。ベンとれ」と思う日々だ。(澤)

(2ページからのつづき)

要請行動後のまとめ集会では、各ブロックからの報告と初参加者からの感想が語られました。議員への面談では野党共闘が進んでいることを感じたなどの変化が語られました。

大阪から初参加の犠牲者遺族は、「父は50年前に亡くなりました。犠牲になった無名の人がいっぱい

いることも知らせていただきたい」との要望がだされました。

初めて国会請願行動に参加して



●田中絵梨子さん（北海道）

札幌支部から、「若男さんの話は、いまの安倍政権に人をつながつており、他人事ではない

いうことで声をかけられ参加。全国から集まってきた国会請願は圧巻。前から聞いていたので、議員回りの対応にはあまりがっかりはしなかった。立憲民主党の議員秘書の対応には丁寧さが感じられ、野党共闘という情勢変化の兆しかもしれないと思った。犠牲者の杉浦正男さんの話は、いまの安倍政権に

人をつながつており、他人事ではない



横濱事件で治安維持法違反の有罪判決を受けた木村亨さんは、無念にも10年前に亡くなりました。お連れ合いの木村まき

「ここも拘置所の敷地内なので撮影は禁止です」と守衛さん。「でも、この方は横濱事件のご遺族なのです」と学生たち。「横濱事件って何ですか？

さんは、いまでも国賠訴訟を闘っておられる。

治安維持法の時代は過ぎ去っていない

最大の言論弾圧事件を知らない。しかしそれが70年という歳月がもたらす現実だ。

去年から、まきさ

んを主人公に、ゼミ生たちとともにドキュメンタリーを制作している。

こんなことがあった。木村亨さんが拘束されていた横浜拘置所の脇でまきさんのインタビューをしていたとき。守衛さんが飛んできて制した、

永田浩三

7月、まきさんと一緒に「横濱事件と言論の不自由展」を開く。朝日新聞阪神支局襲撃、E-TV番組改変、九条俳句不掲載。安倍政権下でのメディアへの弾圧……。治安維持法の時代は過ぎ去つてないと思う。

件と言論の不自由展」を開く。朝日新聞阪神支局襲撃、E-TV番組改変、九条俳句不掲載。安倍政権下でのメディアへの弾圧……。治安維持法の時代は過ぎ去つてないと思う。

(武蔵大学教授 元NHKチーフプロデューサー)

と思った。楽しかった。

●川嶋均さん（東京都）

東京藝術大学の連続講座の企画で、北海道の菱谷良一さんとお会いし、その縁で参加しました。(写真山添参院議員を囲んで左から2人目)

『種まく人びと』も視聴。生活図画事件は理不尽。自由と平和のための東京藝術大学有志の会主催「芸術と憲法を考える連続講座」第6回、5月19日の「知ってますか？ 作文・美術教育が罪とされた時代」(講師・佐竹直子)で、

『伝える、伝わる』生活図画事件の証言(制作：旭川工業高校KBS旭川放送局)が上映され、感動を呼びました。犠牲者が亡くなられ、私たちの世代が語り部に



ならなければならない。

●柏木功さん（大阪府）

吹田・摂津支部から比較的若い人ということで参加しました。

(4ページへつづく)

(3ページからのつづき)



●新本勝子さん(沖縄県)
維持法国賠同盟に参加。同盟活動の国民的広がりをつくりたい。

沖縄県本部で事務局活動。女性に行ってもらおうということで、請

願行動に参加。大切な署名なので、



国会請願全体会議

同盟は44年間、900万筆超の署名を積み重ねたのは大変な偉業だと思う。小学校の理科の教師だったが、歴史に興味を持ち、部落問題と人権問題に関心を寄せ、治安

議員さんには大事に取り扱ってほしい。人権問題としての治安維持法犠牲者の名誉回復は、国民すべ

青年部結成記念イベントに100人超える参加

東京都本部



同盟東京都本部は、青年部結成イベントを5月18日夜、阿佐ヶ谷のライブスタジオ、LottoAで開き、100人超が参加しました。

パワーポイントを使い進行しました。イベントは、青年に分かりやすく治安維持法について訴える企画を青年の実行委員会を決め取り組みました。

司会はスタジオAの田中モエさんと原田みのる事務局長、進行は、松島祐一郎目黒区議、ゲストに山添拓参議院議員・青年部長、池内さおり前衆議院議員、水谷陽子弁

てに知ってほしい。特にマスメディアにはもっと取りあげてもらいたい。来年は二人で参加したい。

護士、プレゼンターに吉田万三都本部会長、菅野亨一副会長、阿部俊夫事務局次長。

治安維持法で逮捕、拷問、虐殺された10人をそれぞれ10分で紹介。生活図画事件の松本五郎さん、生活綴り方事件など。治安維持法を全く知らない人も参加、青年は60%。紹介されたエピソードに「エー」と驚きの声、「許せますか」との司会の問いに「許せない」の声。はじめて知った治安維持法の惨さに、モエさんも、そんなことは許せない、多喜二さん伊藤千代子さんも取り上げていきますと決意。このイベントで4人の入会者がありました。

前財務事務次官の女性記者セクハラ問題についての麻生太郎財務大臣の暴言撤回、即刻辞任を求めます

麻生財務大臣は、福田淳一前財務事務次官の女性記者へのセクハラ行為が発覚した直後から、セクハラが人権侵害であり絶対に許されない行為であるという認識を欠いた異常な対応を続けています。

あり、「すべて国民は、個人として尊重される」(日本国憲法13条)に違反するものです。

私たちは、「暴言」を連発し、二重三重に被害者を傷つけてかえりみない麻生財務大臣に抗議し、暴言を撤回・謝罪し、辞任することを強く求めます。また、

私たちは、男尊女卑の天皇主権政治の変革を求めて、治安維持法の犠牲となった女性たちの意志を引き継ぎ、平和と人権の社会をめざし歩み続けます。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

女性部長 大石喜美恵

顕彰碑

探訪

言葉为民衆の為に

言語学者・エス・ペ
ランチェストさいとうひでかつ
斎藤秀一

1908年に生まれ、駒沢大学東洋学科に学びます。不況のなか研究者の道を諦め、地元の小学校で教員生活を送ります。子ども達や青年達にローマ字教育を行い、校長の讒言から検挙され免職されます。

秀一は、現在でも国語辞典の著作者にも名前が載っている言語学者です。在学中から親交のあった学者達から原稿をもらい、自らガリを切り、『東京方言集』『文字と言語』を発行しました。エス・ペ

蘭士とも交流があり、当時植民地としていた朝鮮・台湾・満州の方言にも注目し、言語差別政策に反対していました。

このような秀一の業績に感じた地元の篤志家が2012年9月に顕彰碑を建立しました。撰文者は秀一の軌跡を研究している渡部泰山氏です。

秀一は4回目の検挙で秋田刑務所に収監され、肺結核が悪化し自宅療養となります。42年、32歳の若さで永眠しました。

戒名は大雲秀一高和尚品位。命日の9月5日には、法要と講演や学習会が生家である泉流寺で開かれます。

【交通】鶴岡駅前より庄内交通バスで、落合方面行きで櫛引南小学校前で下車。徒歩10分。

泉流寺(鶴岡市東荒屋竹の内20)境内に顕彰板と顕彰碑があります。

(国賠同盟山形県本部)

常任理事 鈴木良春)

魯迅
や葉

神奈川県本部

相模原支部結成

5月19日、相模原市民会館会議室にて、相模原支部が結成されました。会員35人。湘北支部からの分離独立です。宗形孝至神奈川県本部会長、堀口日本共産党北部地区委員長、増本一彦中央本部会長も出席しました。結成の経緯が亀井博湘北支部事務局長から報告され、地域の日本共産党の協力に感謝を述べました。活動方針、支部規約などが討議、採択され、



支部規約などが討議、採択され、

支部長・藤井克彦(神奈川県議会議員・日本共産党)、事務局長・須藤三雄、事務局次長・小室愛の各氏が選出されました。

記念講演は、治安維持法犠牲者等の神奈川県北部のたたかいと抵抗の歴史、講師は増本一彦中央本部会長。(このとりくみで3人入会)

茅ヶ崎・寒川支部結成

4月21日、茅ヶ崎地区コミュニティセンターにて、茅ヶ崎・寒川

支部が結成されました。会員33人。湘南支部からの分離独立です。開会のあいさつは紺野君子湘南支部長。宗形孝至神奈川県本部会長、沼上徳光・中野幸雄茅ヶ崎市議会議員が祝辞を述べ、大益弘・湘南支部事務局長が経過報告。一宮真理準備会世話人から活動方針、予算案、役員案が提案され、討論採決で承認。新役員は、支部長・一宮真理、事務局長・藤田香代子の各氏。

第2部は、小野靖子さんの腹話術、小野強さんのオカリナ演奏。

中国・ジャムスへ長谷川テル墓参の旅
日時 8月23日から5泊6日

長谷川テル夫妻の平和思想と人類愛にもとづく勇気ある行動を讃え、顕彰することが目的。その一環として墓前で、『希望の鳩 ヴェルダ・マーヨ 長谷川テルの歌』を歌う予定。テル(1912-1947)は、1929年に17歳で奈良女子高等師範学校(現奈良女子大学)逮捕・退学処分となりました。治安維持法国賠同盟本部、日中大阪府連、国賠同盟大阪府本部の3団体共同主催

抵抗の群像



「聳ゆるマスト」の名前を提案 発行責任者も務めた 平原甚松

ひらはら じんまつ

瀬戸内の島から呉海兵団へ

1906年10月に現在の広島県豊田郡大崎上島町に生まれ、82年1月13日に島根県津和野町で死去。瀬戸内海の島で育った平原甚松は、26年、20歳のときに呉海兵団に入隊。機関兵として駆逐艦「磯風」に4年間乗船し、横須賀工廠の「戦旗」グループと交流し、憲兵隊に検挙。2カ月間の取り調べをうけ呉港にもどりました。

30年には、のちに発行する「聳ゆるマスト」発行・初代責任者となった阪口喜一郎二等機関兵曹らと呉海軍内に「社会科学研究会」をつくり、31年8月初旬に治安維持法違反で呉憲兵隊に検挙されました。軍法会議では黙秘でたてかいた、全員が、現役免職処分をうけました。

除隊後、12月に共産党呉地区責任者であった寺尾一幹の推薦で阪口喜一郎につづき日本共産党に入

党しました。多喜一・百合子賞を受賞した山岸一章著の『聳ゆるマスト』（絶版）、呉の作家、小栗勉著の史伝小説『聳ゆるマスト』では、関係者の協力でその活動が明らかにされています。

阪口喜一郎とともに「聳ゆるマスト」発行へ

32年2月下旬には、海軍兵士に反戦平和を訴える軍港新聞「聳ゆるマスト」（呉地区軍事部機関紙、旬刊）を、阪口喜一郎を責任者にして発行。その名前は、平原甚松の提案によるものでした。

中央の要請で上京した阪口につき責責任者となった平原は、四号まで発行（呉軍港の水兵は2万人でした。その中で読者は1000人をこえる）し、5月3日に特高警察に逮捕されました。平原は、黙秘をつらぬきました。

5月20日付け日本共産党の機関紙「赤旗」で初めて「聳ゆるマス

ト」発刊の記事、7月には「兵士の友」創刊号に掲載。平原は同年7月に釈放、10月に、先に上京し中央軍事部にいた阪口の要請で、党中央軍事部員として横須賀海軍内での活動の援助の任務につきました。同年11月に特高警察により逮捕されますが完全黙秘を貫き、不起訴処分。帰郷中の山陽本線三原駅で再逮捕。33年4月に治安維持法違反で起訴され、3年6カ月の実刑判決でした。広島刑務所を満期出所後、「人民戦線運動」で再逮捕され不起訴。その後、郷里の大崎上島で過ごしますが、同郷の妻カツとともに満州に渡り、終戦を迎えました。

戦後は、島根県津和野町で

帰国後、47年1月に、木村莊重（三代目発行責任者、五、六号発行）の要請で、島根県木部村（現津和野町）に移住。木部村の財政係として勤め、町村合併後、津和野町の財政課長で定年を迎えました。猫いらずとして全国各地で使われた「石見銀山」を生産し、鎌倉時代からつづく津和野町木部地区の笹ヶ谷鉱山の砒素砒毒問題

で、住民運動の先頭にたつたかいました。環境庁は73年に砒酸の製造による環境汚染を認め、患者認定、救済、防止対策、堆積物の封鎖、堰堤の改修などに約553億円を投入。

瀬戸内海の郷里の島と隣接する広島県大久野島（現在うさぎの住む島と有名）では、戦前は陸軍の所有の島として国際的に禁止されていた「毒ガス」兵器を生産し、大量に中国戦線で使用されました。その原材料は、津和野町の笹ヶ谷鉱山からもちこまれていました。

戦後、平原夫婦は津和野町ですごし、故郷について周囲の人には、「瀬戸内海のある島の出身」としか伝えず、故郷の島には戻りませんでした。子どものいなかった平原甚松と妻カツさんの墓は、津和野町木部保育所の前に建立され、地元の方々に供養されています。木部地区には、海軍の中で同志であった木村莊重の墓もあり、帝國海軍の中で反戦平和をたたかった先人の戦後の不屈の闘いを示す地となっています。

（二階堂洋史・広島県本部理事）

同盟文芸

短歌

碓田のぼる選

卒寿吾をいまも先生と呼ぶ子らは一期一会のわが宝なり

大分県 渡辺 幹生

水田に山映る朝加計・森友の疑惑追及のテレビ始動

岩手県 小杉 正夫

期せずして国会中継への怒り声妻とそろえり五十年

岐阜県 田中 良

畦道に今を盛りに咲いているたんぼの群れ太陽に

岡山県 中山 芳樹

多美さんは警察官を父にもち米騒動の頃淡淡と云う

静岡県 江川 佐一

先輩が伴い来たる銀行員挨拶もまだ初々しくて

岐阜県 和田 昌三

ウグイスの鳴く声聞けぬこの春は緑の木々の切り株

福井県 元山章一郎

ウミを出せ出すべきウミは首相自身希望は市民と野

島根県 小玉 信恵

党の共闘

兵庫県 岸本 守

南北の分断国家はただ一つ朝鮮一つ世界が待ちぬ

島根県 大久保禮吉

忘れまじ明治一五〇年の宣伝に加害国と被害国の民

島根県 大久保禮吉

の疼きを

島根県 大久保禮吉

俳句

メーデーや母も背の子も拳突く

三重県

橋本しげる

ぜんまいの集団の渦ころろざし

石川県

野村 芳泉

海峡を歌を交えつ春の風

神奈川県

天野三葉子

「諦めぬ」島に広がるメーデー歌

埼玉県

小池 荘八

句友たち兜太兜太と春の旅

兵庫県

岸本 守

「評」権力で嘘を通した失敗例を歴史はいくも持っています。今の安倍政権はレッドカードです。この悪政とのたたかいの中で、この時代の詩語を捉えましょう。

川柳

鈴木いさお選

軍事費を回し救おう地球飢餓

大阪府

佐々木雅博

「評」戦しない国に不要とも思える膨大な軍事費。そのお金で何人の飢餓の児を救えるだろうか、ユニセフのCM見るたびに痛感する。

極東の蚊帳に入れてと縋りつく

埼玉県

福家 駿吉

シニアよりリニア大事にする政治

大阪府

大和 峯二

阿・吽の呼吸で値引き額を決め

宮城県

根本 京子

参考人正義の知事の矢に撃たる

鳥取県

大久保禮吉

創立50周年記念会員拡大
5人以上の顕彰者

(第7次発表7人・累計84人)

【山形】 1人 高橋嘉一郎

【石川】 1人(累計2人)

金子 視好

【東京】 2人(累計12人)

岡崎路辺・中嶋育雄

【京都】 1人(累計2人)

藤原 元幸

【熊本】 2人

関根涼代・渡辺靖弘

「顕彰者」の掲載を継続します。

「5人以上拡大に挑戦しましょう。」

なお、「5人以上拡大」で掲載された方で、「10人拡大」を突破された方には、記念品を贈呈します

県本部を通じて中央本部までお知らせください。

【訂正】本紙前号2頁3段目後から6行目に、「望月たけしさん(本紙俳句選者)」を挿入します。

「種まく人びと」 第35回日本映画復興奨励賞を受賞

第35回日本映画復興奨励賞の贈呈式が5月12日、東京・新宿で行われ、同盟50周年記念映画「種まく人びと」の鶴見昌彦監督他スタッフが奨励賞を受賞しました。復興賞は「米軍が最も恐れた男 その名はカメジロー」の佐古忠彦監督と岩波ホール。平和賞は、「花筐／HANAGATAMI」の大林



見鶴 昌彦監督
表賞状を受ける

宣彦監督。奨励賞は「抗い記録作 家 林えいだい」の西嶋真司監督、「『知事抹殺』の真実」我孫子亘監督も受賞しました。

【日本映画復興賞とは】

故・山本薩夫監督の発意により1983年に設置された「平和と民主主義を守り、戦争に反対し、ヒューマニズムの理念に徹した日本映画の業績」を表彰する賞。

日本映画の文化的・産業的復興と民主的な再生をめざし1961年に設立された日本映画復興会議が、運営・選定している。

『現代』誌の深さ

『治安維持法と現代』との出会いは、2017年秋号から始まりました。新興吟詠会事務局長園部道香さんの革新吟詠、憲法九条を吟詠する詩吟の会新興吟詠会の創立趣旨、活動の記事に飛びつきました。それは、吟詠愛好者としてずっと求めていたことだった、さらに渡辺治氏論文では秘密保護法、憲法改悪、安倍政権の問題点と運動の方向を私たちに示してくれて、頭がすっきり。扱う内容が広く深いことがわかりました。18年春季号の山田朗・明治大学教授の巻頭論文で憲法九条改憲問題は、近代

日本の歴史や戦争を支えてきた治安維持法などの弾圧体制をどう捉えるのかという歴史認識が問われているとの考えに同感です。戦前、戦争政策に対して反対し、治安維持法によって弾圧された人々の名誉がいまだに回復されていないことにあらためて怒りがこみあげてきました。他国の戦後賠償についてはもっと知りたいと思う。本誌は、実に読み応えがあつて不確実な知識を整理してくれました。

(千葉県 畑澤英穂)

事務局日誌

5月1日 中央メーデー
5月3日 5・3憲法集会
5月10日 国会請願・各党への挨拶
要請

5月16日 国会請願

5月17日 女性部拡大会議

5月18日 三役・ブロック組織担当者会議

5月18日 東京・青年部結成イベント

5月21日 小口巽顧問の偲ぶ会

5月22日 国際人権活動日本委員会代表者会議

5月25日 請願日不在国会議員への署名簿届け

5月27日 山形県本部大会

『抵抗の群像』第三集は「地域社会運動史・戦前編」の記録遺産

徹夜することができなくなった昨今、一気に付雲をつけて読み終え、しばらく昼夜の逆転が続きました。北から南まで先覚者たちが、不屈にたたかった記録を、字数制限の中で、地元の資料・文献を掘り起こした遺産として編集されており、「解放運動記録史」として多くの人に読んでもらいたいと思います。

行間に書けなかった記録を知りたくて、貴重な文献・資料を都道府県本部・支部関係の方から送って

頂きました。文面を借りてお礼申し上げます。

第三集では、杉浦正男さんの「出版エクラブ」の管理人として原(岩田)菊枝さんがつとめた話し、原菊枝さんが大島英夫キャップの内閣印刷局工場細胞会議で、『赤旗』第1号を渡されるなど、『抵抗の群像』の人々が、点と線で結ばれているのが解かります。『抵抗の群像』第四集が待たれます。

(仮称)「新宿・落合プロレタリア文化研究会」

調査係 黒田 誠



2018.5.16

国会請願行動



写真上段右から糸数慶子参院議員、近藤昭一衆院議員、山添拓、仁比聡平両参院議員、藤野保史、赤嶺政賢両衆院議員、左側下へ杉浦正男、松本五郎、菱谷良一の各氏。右下は増本一彦会長



号 外

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462

E-mail
chian@bz03.plala.or.jp
頒価 50円

署名へのご協力ありがとうございました

全国から178人の代表が19万筆の署名を提出

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

会長 増本 一彦

みなさまにご協力いただきました「治安維持法犠牲者に謝罪と賠償」を求める国会請願署名19万筆を持つて5月16日、全国から178人の代表が45回目の請願要請行動を行いました。

請願行動には、治安維持法犠牲者の杉浦正男（103歳）、松本五郎（97歳）、菱谷良一（96歳）の各氏を先頭に国会議員事務所を訪問し、請願署名の紹介議員になっていただく要請とともに、野党議員には「市民と野党の共同」への努力に謝意と激励、いっそうの奮闘をお願いしました。

私たちが毎年国会請願を続けていることは、各地における「市民と立憲野党の共同」を前進させる努力と相まって、野党議員の同盟運動に対する関心を広げています。

集会には、日本共産党の赤嶺政賢、藤野保史両衆院議員、仁比聡平、山添拓両参院議員、立憲民主党副代表の近藤昭一衆院議員、沖縄の風代表の糸数慶子参院議員が激励あいさつに駆け付けました。

他方、政権与党の自民党、公明党等の議員は私たちの要求に対して、いっそう一線を画そうとしていることも明らかです。政権与党にとつては、同盟運動が九条改憲、緊急事態条項導入の企てのさまたげの一つと自覚されるようになってきたことを意味しています。

私たちは、国が戦前の政府の誤りを認め、謝罪するまで運動を続けます。これからもみなさま方のいっそうのご協力を心からお願い申し上げます。